

**立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）**  
**プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）**  
**2016年度研究【経過・成果】報告書**

研究代表者	所属部局・職	氏名		
	文学部・教授	丸山 浩明	印	
研究課題	ブラジルにおける各国移民の非同化適応戦略とトランスナショナリズムに関する比較研究			
研究組織 (研究代表者・研究分担者) 2017年3月現在	所属研究機関・部局・職	氏名		
	立教大学・文学部・教授 (ラテンアメリカ研究所長)	丸山 浩明		
	日本女子大学・文学部・教授	北村 暁夫		
	東京学芸大学・教育学部・教授	加賀美 雅弘		
	立教大学・ランゲージセンター・教育講師 (ラテ研・研究員)	ドナシメント・アントニー		
	立教大学・文学研究科 博士課程(超域文化学専攻)・大学院生	名村 優子		
研究期間	2016年度～2017年度			
研究経費※ (上段:支出金額)	2016年度	2017年度	年度	総計
	3,360,053円	0円		3,360,053円
(下段:採択金額)	3,500,000	2,500,000		6,000,000

※1円単位で記入

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

共同プロジェクト研究の初年度にあたる2016年度は、ブラジルを代表する移民社会が形成されている南部3州(パラナ州・サンタカタリーナ州、リオグランデドスル州)を対象として、なかでも60余りの国や地域の多様な移民社会が存在する「エスニック・ラボラトリー」の異称をもつパラナ州をおもな事例調査地域に選定して、移民関係史資料の収集や聞き取り調査、景観観察などのフィールドワークを実施した。また、現地調査に参加できなかったメンバーは、外務省外交史料館や国内の図書館、移民資料館などで、各自が担当する国の移民に関わる公文書や文献資料などの収集にあたった。

キーワード(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 移民 ] [ ブラジル ] [ トランスナショナリズム ]

## 研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

## A:【現地調査に参加したメンバーの研究概要】

ここでは申請書に記した5つの課題に即して、以下にそれぞれの研究概要を詳説する。ちなみに、ブラジルでの招請講演および現地調査は、本年度は丸山と北村の2名が参加して、2016年8月31日～9月14日に実施した。

## (1)ブラジル南部における各国移民の入植地建設の歴史とその空間的拡大に関する調査

ブラジル南部のサンタカタリーナ州とパラナ州にあるイタリア・ドイツ・日本・オランダ移民の主要な移住地にて収集した各国の移民史資料や地図類、ブラジルの古本屋サイトから購入した文献などをもとに、代表的な西欧移民と日本移民の南部3州における移住の歴史を明らかにした。また、入植年代に留意しつつ、各国移民の入植地分布とその拡大過程についても分析した。

## (2)ブラジル南部の代表的なドイツ人、イタリア人、日本人、オランダ人の集団移住地における基礎的な移民関係資料の収集および景観観察・聞き取り調査

現地協力者のケルトン・ガブリエル氏(ロンドリーナ大学・博士課程)の案内で、以下に示す各国移民の移住地や研究・教育機関などを訪問して、資料収集や景観観察・聞き取り調査を実施した。

【パラナ州】IHGPR(パラナ地理・歴史協会、クリチバ)、サンタ・フェリシダーデ(イタリア人移住地、クリチバ)、日本人移民資料館(クリチバ)、パラナ大学民族・考古学博物館(パラナグア)、アレシャンドラ(イタリア人移住地、パラナグア近郊)、コロニア・セシリア(イタリア人が建設したアナーキスト村、パルメイラ)、リオネグロ(ドイツ人移住地)、カストロ(日本人・ドイツ人・オランダ人の移住地)、ACEC(カストロ日本人体育文化協会)、テラ・ノヴァ(ドイツ人移住地、カストロ)、カストロランダ(オランダ人移住地)、アサイ(日本人移住地)、ロンドリーナ(日本人ほか多民族の移住地)

【サンタカタリーナ州】ジョインヴィル(ドイツ人移住地)、ジョインヴィル移植民国立博物館(ジョインヴィル)、移民墓地(ジョインヴィル)、ブルメナウ(ドイツ人移住地)、植民家族博物館(ブルメナウ)、グアビルバ(ドイツ人移住地およびその中にあるイタリア人移住地も訪問)、ボトゥヴェラ(イタリア人移住地)、ブルスケ(ドイツ人移住地)、ロデイオ(イタリア人移住地)、ポメロデ(ドイツ人移住地)、ジャラグア・ド・スル(ドイツ人移住地)、移民博物館(ドイツ人移住地、サン・ベント・ド・スル)

これら訪問地の中で、イタリア人移住地に関しては、パラナ州のサンタ・フェリシダーデとコロニア・セシリア、サンタカタリーナ州のボトゥヴェラとロデイオにおいて、母国であるイタリアとの関係や各移住地の植民史について詳しい聞き取り調査と資料収集を行うことができた。また、移住地の特長を景観写真から記録した。同様にドイツ人移住地に関しては、パラナ州のテラ・ノヴァ、サンタカタリーナ州のブルメナウ、ポメロデ、ジャラグア・ド・スル、サン・ベント・ド・スルにおいて、さらに日本人移住地に関しては、パラナ州のアサイや州都のクリチバにおいて、多数の移民関係資料の収集や移住地の景観観察などを行った。

## (3) 詳細な現地調査と各国移民の比較研究を実施するための事例調査地の選定

上記(2)で説明したジェネラル・サーベイの成果とメンバー間の協議を経て、パラナ州のカストロ市とその周辺地域(カストロランダを含む)を、次年度以降実施する事例調査地に選定した。カストロには市街地に日本人やイタリア人が集住している。一方、市街地の南にはドイツ人移住地のテラ・ノヴァが、東のカストロランダ方面には大規模なオランダ人移住地が広がっている。カストロは、これら各国移民が歴史的にいかなる関係性を持ちながら生活してきたのかを探るうえで好適な事例調査地域といえる。

## (4) 次年度以降の本調査に向けた移民関係機関の訪問と研究協力体制の整備

カストロで主要な移民集団を形成する日本人、ドイツ人、オランダ人に関して、各国の移民関係機関を訪問して研究協力体制の整備を行った。

【日本移民】ACEC(カストロ日本人体育文化協会)を訪問して、カストロにおける日本移民の入植・発展の歴史や、現在の日系団体の活動などについて聞き取り調査を行い、次年度以降の本調査における便宜供与を依頼した。

**研究【経過・成果】の概要 つづき**

【ドイツ移民】テラ・ノヴァ移住地内に建設されたドイツ人の移民博物館を訪問して、ドイツ移民の子孫で現地の移民研究者でもある Ms. Sophia 女史から聞き取り調査を行った。テラ・ノヴァ入植者のドイツでの略歴、カトリックかプロテスタントかというキリスト教の宗派の違いが入植地建設に際して及ぼした影響、近隣に入植したポーランド移民との関係、などについて情報を入手した。また、入植当時の土地所有や土地利用を示す古地図や、テラ・ノヴァ移住地に関する学術論文なども入手することができた。次年度以降の調査協力を Ms. Sophia 女史にお願いした。

【オランダ移民】カストロランダは、第二次世界大戦後にオランダ人が移住して建設された、ブラジルを代表する乳製品の町である。2001年に建設された巨大な風車の内部には、ブラジルにおけるオランダ移民の発展史がパネル展示されており、100年に及ぶオランダ移民の歴史をまとめた文献類も収集できた。このオランダ人移住地の急速な発展の背景には、オランダ本国からもたらされた最新鋭の農業機器や農業技術、血統書付の優良家畜などがあった。今回は訪問できなかったが、次年度の調査ではカストロランダ農業協同組合などでの資料収集や聞き取り調査が有効であることを確認した。

**(5) 収集したブラジル移民関係資料の整理・分析**

今年度の現地調査で収集した各国移民の関係書籍は、合計数十冊にのぼる膨大なものとなった。現在、各国担当者がこれらの文献資料を整理・分析して、次年度以降の調査計画を練っている。

**B:【現地調査に参加しなかったメンバーの研究概要】****(1) 外務省外交史料館における資料収集**

1933～1934年の日伯関係についての外務省記録、特に同年に開催されたブラジルの新憲法制定議会における移民関連法案の審議過程に関する駐伯日本人外交官と日本の外務大臣との間で作成された電報を収集した。

外交官の記録については外務省編纂の『日本外交文書』が刊行されており、『昭和期Ⅱ第二部第二巻』および『昭和期Ⅱ第二部第三巻』には、1933～1934年の日伯関係についての電報の一部が収録されているため、ここから日伯交渉の概要を追うことができた。

しかし外交官の活動や伯国議会の動向などの詳細については、原史料である外務省記録から抽出する必要がある。そのため、外務省外交史料館で『各国に於ける排日関係雑件 伯国の部』『各国移民法規並政策関係雑件 伯国ノ部』等の簿冊を閲覧した。

ここで収集した資料を読解・考察した結果、外務省内（駐伯大使・駐伯総領事・外相）の意見の相違や対立の様子がより具体的に判明した。また、駐日外交官の伯国政界への工作や伯国議会に対する評価、伯国の報道機関や議員・知識人等の日本移民に対する評価などの具体的な内容が明らかになった。

**(2) 神戸大学経済経営研究所図書館の中南米文庫の閲覧および資料収集**

中南米文庫は、福原八郎（南米拓殖会社の創始者）および野田良治（リオ・デ・ジャネイロ大使館参事官）の寄贈図書を基礎に、1938年1月に開設された南米文庫が前身であり、約1,000点の日本語文献と約10,000点の外国語文献を所蔵している。所蔵分野はラテンアメリカ各国の政治・経済・歴史など、人文社会科学分野の全般にわたる。

今回行った資料調査の主目的は、日本移民の待遇及び永住・帰化等に関わるブラジルの入移民法制の日本語訳資料の探索であった。外務省通商局 1923.『伯刺西爾国「サンパウロ」州移民法』、外務省亜米利加局第二課 1939.『伯国外国人入国法並施行細則』等、ブラジルの移民法制に関する文献を中心に22冊を閲覧・複写した。

本格的な資料分析はこれからになるが、移民政策の主体がブラジルの各州から連邦政府に移行する1920～1930年代において、1930年以前のサンパウロ州の移民法制と、それ以降のブラジル国全体での移民法制がどのように変化し、それがブラジル日本移民にどう影響したのかを検討する上で重要な材料になると考えられる。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

Do Nascimento, Anthony. Les Prémices de l'émigration japonaise vers le Brésil : Le Japon et la «révolution des départs» (1868-1907). 立教大学ランゲージセンター紀要、37、17-31、2017.

名村優子・アントニー・ドナシメント：1933-1934年のブラジル新憲法制定議会における排日運動と日本の外務当局の対応。ラテンアメリカ研究所研究所報、No. 45、1-18、2017年。

③ シンポジウム・公開講演会等の開催

第47回現代のラテンアメリカ：第1部「日本就労現象とブラジル日系人社会」（二宮正人・サンパウロ大学教授）、第2部「南米のイタリア移民－ブラジル・アルゼンチンを中心として（北村暁夫・日本女子大学教授）」、2017年1月21日、立教大学。

[ラテンアメリカ研究所講座生・学生・教職員・校友・一般を対象とし、約120名の参加者があった。]

④ その他

《招請講演》

日本学術振興会主催「I JSPS International Scientific Exchange Workshop」にて招請講演 【[https://www.jsps.go.jp/english/saopaulo/data/IJSPS\\_ISEW\\_Aug2016.pdf](https://www.jsps.go.jp/english/saopaulo/data/IJSPS_ISEW_Aug2016.pdf)】  
(2016年8月30日～31日、於：ブラジルサンパウロ大学法学部)

なお、当日の講演の内容は現地の日系新聞に掲載された。以下はそのアドレスである。

【<http://www.nikkeishimbun.jp/2016/160907-81especial.html>】

Hiroaki Maruyama : Japanese Immigration in the Amazon – Analysis focused on the foreign relations. 2016.8.31、São Paulo.

Akeo Kitamura : Italian Immigration to Southern Brazil. 2016.8.31、São Paulo.

《研究会発表》

名村優子：1933-1934年のブラジル新憲法制定議会における排日運動と日本の外務当局の対応（仮）、CHIR-Japan(国際関係史学会)研究会、2017年4月15日開催予定、立教大学池袋キャンパス。